

高温に備える営農技術対策

平成30年5月30日
北海道農政部

札幌管区気象台から発表された「高温に関する異常天候早期警戒情報」(平成30年5月28日)によると、北海道地方では、6月2日から11日までの期間をとおして、平年より気温がかなり高く(+2.6℃以上)なることが見込まれております。

今後の高温に際して、作物や家畜の管理、農作業に従事する方々の体調管理に対応することが重要です。最新の気象情報に十分注意し、次の事項に注意してください。

札幌管区気象台ホームページ <http://www.jma-net.go.jp/sapporo/>

高温に関する注意項目

- 1 稲の生育ステージに応じた水管理の徹底に努める。
- 2 遮光資材などを展張し、換気に努め、ハウス内の温度低下に努める。
- 3 急激な気温上昇により体調を崩しやすくなるので、適度に休息を取り入れる。

第1 水 稲

適正な水管理を行い分けつを早期に確保する。活着までの好天時は、2～3cm程度の浅水にして活着を促進する。活着後は、3～4cmの浅水管理を行う。

第2 野 菜

- 1 作物の生育ステージに応じた温度管理、適水管理を徹底する。
- 2 高温で日射しが強い時は、遮光資材などを展張する。その場合、曇天時には速やかに被覆はやめて、過度な遮光にならないように注意する。
- 3 日中の急激な気温の上昇に注意する一方、夜間は冷え込むこともあるので、ハウスの管理は高温対策と低温対策の両方に留意する。温度が急速に低下する時は、ハウス内の湿度が高まり、病害発生の要因となるので、モヤ抜き換気を行う。

第3 畜舎及び鶏舎の飼養環境と畜舎周辺整備

突発的な気温上昇時には、換気扇等を積極的に活用し、暑熱ストレスに対応する。また、畜舎・鶏舎内の換気を十分に行い、湿度上昇を防ぎ、乾燥を促進する。水槽や飼槽を清潔に保ち、飼料採食量の向上や感染症の蔓延防止を図る。

第4 農作業安全

- 1 余裕を持った作業計画を樹立し、気温の高い時間帯を外して作業を行うなど環境に配慮する。
- 2 熱中症防止のため、作業前に水分を補給し、作業中は、定期的な休憩と、こまめな水分及び塩分の補給を心がける。また、通気性や吸湿性の良い涼しい作業着を着用し、保冷材を首もとに当てるなど身体を冷やす工夫をする。
- 3 ハウス作業は、日照により気温が大きく変化するので、体調がすぐれない時や高温時は体力や身体能力に合った作業を心掛ける。
- 4 屋内では、遮光資材等を利用し室温上昇を防ぐとともに、風通しを良くし換気に努める。
- 5 気温が25～30℃以上となる高温時の農薬散布作業は、作物に対する薬害の危険性が増大すること、散布者の健康被害が懸念されることから、なるべく避ける。